

2016

別府史談

第二十九号



別府史談会

(表紙写真) 「榊屋」糸永家住宅

別府市浜脇1丁目11番15号に「榊屋」糸永家住宅がある。

抑、糸永家は、赤野一帯を制していた赤野城主、雄城一族で、初代糸永正栄は、弟正信に家督を譲り、浜脇に移ったのが18世紀半ばのこと、祖先は大友の武将であった。

建物の屋根裏の桁に棟札の代わりとして直接書かれた文字から明治4年(1871)に糸永家第6代(正憲)又三郎が、隠居した父、第5代(正和)孫左衛門のために建てた住宅であることが分かる。

建物は桁行8間、梁間4間半規模で、2戸長屋の形式をもつ。木造2階建、寄棟造、棧瓦葺。それぞれの住戸が6畳広さの表土間をもち、通り土間の形式をもつ。外壁は、漆喰塗と縦羽目板張りで構成され、4枚引き違いの格子戸玄関の横には連子窓があり商家の趣がある。

離れは、主屋の東側に建つ。桁行3間、梁間2間で、土蔵造り2階建、切妻造、棧瓦葺である。腰に海鼠壁として外壁漆喰塗を鉄板で覆い、漆喰塗の鉢巻を廻す。南面は書院造りで、向って右側に付書院、左側にも付書院風の台が設置されている。

そのほか、網代天井や格子欄間などがさりげなく配置されており、茶室風の趣がある。棟梁・荒金蔵吉。平成19年7月31日、糸永家住宅主屋・離れは国登録有形文化財(建造物)に登録されている。